

2021年度 第1回 豊岡市子ども・子育て会議 議事要旨

日時 2022年3月24日(木) 13時30分～15時30分
場所 豊岡稽古堂 交流室3-1
出席者(委員) 横川会長、大木本副会長、谷口委員、橋本委員、岸田委員、金子委員、永田委員、池口委員、山崎委員、與田委員、間委員、原田委員
(事務局) 堂垣次長、木下課長、吉本参事、富岡参事、吉谷参事、仲義主幹、谷垣主幹、吉田係長、大谷参事、道下係長、山内主事
欠席者(委員) 中島委員、今井委員、中嶋委員、西垣委員

- 会議次第
- 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 委員の任命(辞令交付)
 - 4 委員自己紹介 資料1
 - 5 豊岡市子ども・子育て会議等の概要説明 資料2、別冊資料
 - 6 議 事
 - (1) 報告
 - ア 児童数及び幼稚園・保育園・認定こども園の利用状況等について 資料3-1～3
 - イ 2022年度放課後児童クラブの量の見込みと確保状況について 資料4
 - ウ 豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画の進捗状況等について 資料5
 - エ 豊岡市八条認定こども園の認可事項の変更等について 資料6
 - オ 子育て支援総合拠点等施設について 資料7
 - カ 2022年度一般会計予算 主な子ども・子育て支援関連事業の概要について 資料8
 - (2) 協議
 - ア 2021年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について
 - (ア) 利用定員について 資料9-1
 - (イ) 量の見込みと確保状況について 資料9-2
 - イ 認可保育所の認定こども園移行について 資料10
 - (3) 意見交換
 - (4) その他
 - 7 閉会

配布資料

資料1	豊岡市子ども・子育て会議委員名簿
資料2	豊岡市子ども・子育て会議等の概要説明
資料3-1	児童数の推移
資料3-2	幼稚園の入園状況
資料3-3	保育所・認定こども園の入園状況

資料4	2022年度放課後児童クラブの量の見込みと確保状況について
資料5	豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画の推進状況等について
資料6	豊岡市立八条認定こども園の認可事項の変更等について
資料7	子育て支援総合拠点等施設について
資料8	2022年度一般会計 主な子ども・子育て支援関連事業の概要について
資料9-1	2022年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について
資料9-2	2022年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の量の見込みと確保状況について
資料10	認可保育所の認定こども園移行について
別冊資料	第2期豊岡市子ども・子育て支援事業計画 第2期豊岡市子ども・子育て支援事業計画〈概要版〉 豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画〈概要版〉 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画〈概要版〉

議事要旨

1	開会	開会の宣言（事務局）
2	あいさつ	次長あいさつ
3	委員の任命	辞令交付（机上配布）
4	委員自己紹介	自席にて自己紹介
5	正副会長選出	横川会長・大木本副会長あいさつ
		子ども・子育て会議等の概要について説明
6	議事	
	(1) 報告	
	事務局	<p>ア 児童数及び幼稚園・保育園・認定こども園の利用状況等について 資料3-1・2・3</p> <p>特に質問等なし。</p>
	事務局 会長	<p>イ 2022年度放課後児童クラブの量の見込みと確保状況について 資料4</p> <p>4月23日時点で12人の待機児童があると報告があり、資料の基準日である5月1日時点になると待機児童数は減少するのか。</p> <p>2020年4月の利用者数がピークであるが、なぜ待機児童数が増加したのか。</p>
	事務局	<p>利用者全体としては、減少傾向にあるが、特定の小学校での利用者数が増加しており、定員を超過していることが要因となっている。そのため、5月1日時点での待機児童数が減少するかについては、不明である。</p>
	事務局	<p>ウ 豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画の進捗状況等について 資料5</p> <p>特に質問等なし。</p>
	事務局	<p>エ 豊岡市立八条認定こども園の認可事項の変更等について 資料6</p> <p>特に質問等なし。</p>
	事務局	<p>オ 子育て支援総合拠点等施設について 資料7</p> <p>特に質問等なし。</p>
	事務局	<p>カ 2022年度一般会計予算 主な子ども・子育て支援関連事業の概要について 資料8</p> <p>特に質問等なし。</p>
	(2) 協議	
	事務局	<p>ア 2022年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について</p> <p>(ア) 利用定員について 資料9-1</p> <p>特に質問等なし。</p>
	事務局 会長 事務局	<p>(イ) 量の見込みと確保状況について 資料9-2</p> <p>状況としては良くなっているのか。</p> <p>八条認定こども園の増築により、受け入れ人数を増やす。待機児童の解消に向けてハード面の整備をした。豊岡市全体の5歳児までの人数は減少しているが、園の利用希望者は増加している。保育を必要とする保護者が多いように考えている。</p>

- 会長 最初の報告の時に0歳の人数は減少しているとあった。0歳で預けられる方も50%いる。受け入れ体制がどうなのか。0歳からすでに預けて働きたいという希望があるのか、働かざるを得ないのか、育休が取れたら預けなくても良いのか等の分析はしているのか。
- 事務局 計画作成の時点で申込率は、0歳児は育休を取る想定をしている。育休明けの1歳から預ける考え方である。0歳児家庭の40%が申込みをするという想定をし、増加して50%になると見込んだ。しかし54%前後の申込みがあった。0歳児の子ども3人に対して職員が1人必要であり、勤務体制を整えるための職員が不足している。預かりが出来ない状態となっており、待機児童が出ている。
- 事務局 小規模保育施設を整備した場合、3歳になるとどこで受けるのかという問題等が生じる。例年の0歳児の入園希望者は一定ではないため、ニーズを見ながら対応している。ニーズの把握が十分できていない。
- 事務局 2022年度の申込みは、新規・継続含めて2021年11月の1カ月間で実施する。年によって申込の傾向は変化する。2021年度の0歳児の申込み希望者は多くなかった。しかし、2022年度は、ある園では定員の2倍以上の申込みがあった。半分以上の方にお待ちいただくことになっている。希望者数はその年にならないと分からない。ここ数年の傾向としては、子どもの年齢が3歳くらいから預けるような感覚があったかと思うが、その年齢が低くなってきている。0歳児の希望も増加傾向にある。
- 委員 子どもの受入れに関するルールはあるのか。申込みが早い方から受け付けているのか。ひとり親家庭が優先される等の措置はあるのか。
- 事務局 入所は、保護者の就労時間等、入所に必要な条件を点数化して優先順位の高い方から入所していただくこととしている。
- 委員 一律に申し込まれた方の中から緊急性が高いなどを優先して振分しているのか。
- 事務局 就労時間が長い方、兄弟の有無、ひとり親等を考慮して順位付けしている。
- 委員 豊岡市で子育てしやすい環境を整えることが大切である。0歳から受け入れる体制が必要かもしれない。保護者は預けて働きにいけないことは経済的に苦しいように感じる。豊岡市独自の施策で0歳児の子どもの保護者に対する支援が必要だと思う。0歳児は保護者が育てられるような環境を整えてほしい。
- 事務局 行政サービスを良くしてだけでなく、親子関係を築くことは重要に感じる。各企業でも育休が最低1年間取得できるようになってきている。
- 事務局 0歳児は満0歳ということではなく育休明けの方も含まれている。様々な家庭があるため、受け入れなければならない子どもの受け皿の確保をしていきたいと考えている。
- 委員 1歳児の子どもを育てているが、なぜ0歳児を預けないといけないのかというと、企業に勤めていて育休を取得した場合、1歳の誕生日を迎えた時点で職

場復帰しないと退職しなければならない。そのためには、慣らし保育が必要となり、1カ月前には預けないといけない。本来であれば3歳くらいまでは自分で育てたいと考えている。そのような企業もまだまだある。

会長 豊岡市の企業全体に訴えなければならないことである。豊岡市全体が子育てをしやすいまちづくりをする必要がある。

事務局 国の制度で「くるみん」というものがある。子育てに理解のある会社には認証マークが与えられている。法律で義務付けられている300人以上の企業は事業主の行動計画で子育て支援に関する独自の施策を作らなければならない。しかし、豊岡の企業はそのような対象となる会社はない。まち全体を挙げて子育てに力を入れるのであれば、企業担当課とも連携を取って進めていくことも大切であると感じた。

会長 「くるみん」を知っているか。授業の一環で子育てに関する内容を生徒が調べる課題を出した。企業が「くるみん」を導入しているか何も示されていないので分からない。もっと宣伝されるべきであると思った。

委員 周知されないということは、女性に声が届いていないように感じる。子育てしやすいということは重要であると感じる。

まちで子育てをしてもらおうとする市町村がある。施設を充実させることも大切であるが、施設だけの整備では良くないと感じる。

委員 企業努力ももちろんであるが、豊岡市は在宅育児をする保護者の支援が本当に少ない。自分自身、在宅育児を経験し、子どもを幼稚園に入れた。その当時は在宅支援が充実していた。以前まで豊岡市乳幼児家庭教育委託事業があり、各コミュニティセンターに子育て教室を支援する施策があったが、29地区あるコミュニティセンターのうち、利用が過半数以下ということで支援がなくなった。各コミュニティセンター独自で続けられている場合もあるが、利用者からの意見を聞くことなく廃止になったコミュニティセンターもある。5年間で在宅育児をする環境が大きく変わったように感じる。新たにファミリーサポートセンターの事業が出来たが、1人のまかせて会員につき1家族(きょうだい含む)しか見てもらえない。在宅育児が本当にしにくくなっている。子育てセンターも設置され、多くの事業を実施されているが、そこまでたどり着かない保護者もいる。そのような方をどのようにして救っていくのか。困っている方がどのようにして外に出向いて行くかの支援を考えることが必要である。虐待をして、見つかって、児童相談所に預けて保育園に行くようでは手遅れである。

委員 例えば、4歳から入所される場合で、社交的で様々な場所を訪ねられる保護者と籠って子育てをしている保護者とでは、子どもの成長過程に大きな差がある。子育て支援の中には遊び先がある子育て支援も1つであるが、子育てを楽しむことも子育て支援である。子どもの成長過程には家庭差が大きく影響する。

委員 0歳児から幼稚園になるまでの話が多かったが、小中学校で問題となっている不登校のことにに関して、資料等に記載されていないのは、なぜなのか。

事務局 不登校に関しては、別の組織委員会の中で話し合いが行われている。

事務局 子ども・子育て支援事業計画は、基本的には就学前までの子どもに対しての検討・量の確保等を定めているものである。不登校に関しては、とよおか教育プランに記載している。来年度の以降の取組等についても具体的な施策等も掲げながら検討していく。

委員 資料8の9番、豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画の推進はどのように進めているのか。

事務局 予算の主なことということで挙げている。豊岡市の教育委員会の中で検討させていただいている。今回の子ども・子育て支援事業計画の中には含まれていない。

会長 学校の中のことは別にあり、放課後児童クラブはこちらの管轄という理解で良いのか。

事務局 その通りである。

委員 1歳になる孫がおり、母である娘は孫を入所させ、職場復帰した。自分で子育てをしている時は他の子どもとの関わりが少なかったため、病気にかかることがなかった。しかし、登園するようになり、病気をもらって休むことが多くなった。結果的に娘は職場に居づらくなり、退職した。登園することでそのような状況になることもある。免疫が出来れば問題ないが、最初の1年くらいは病気等になりやすく保護者は大変である。子育て中は職場に迷惑をかけることも理解してもらわないといけないと感じる。豊岡市も理解していると思うが、子育てしやすい支援を企業にお願いするだけでなく、園の実態を把握し、行政としての支援を積極的にしてほしい。人口を増やすためには、若い方が増えなければならない。ハード面だけでなく、ソフト面も検討していただきたい。

委員 育児をしながら仕事しているが、1週間に1度くらいは呼び出されることがある。職場で理解してもらわないといけないと感じる。豊岡市からも呼びかけをしてもらえるだけでもうれしく思う。

事務局 待機児童が来年度もいるということだが、園によって偏りがあると思う。地区によって人気、不人気がある園があると思うが、そのようなことに対する施策はあるのか。働きながら子どもを預けるには、遠くまで連れていくことは難しい。

事務局 0歳児の入所希望の状況は毎年異なるため、今年の場合だけで判断することは難しい。八条認定こども園を増築した理由は、小規模保育施設が多くなってきており、3歳児のつなぎを考えると、連携している園はあるが、受けきれていないことが現状としてある。責任を持って受け入れられるよう3歳児の保育室を整備した。計画で定めている内容は状況を見て柔軟に対応することを前提として策定している。将来を見据えながら必要な変更はしていきたいと考えている。

事務局 昨年11月までに申込みをした方で現在就労している方は第2・3希望の場合もあるが、入所できる状況である。求職活動中の方はお待ちいただいている

状況である。計画を通じて求職活動中の方も入所できるよう努めていきたい。

事務局 **イ 認可保育園の認定こども園移行について** **資料 10**

委員 幼稚園は幼稚園の学びの良さがあると思うが、こども園に移行することで教育保育の質が変化すると思うが、どうなのか。

事務局 幼稚園の場合は、幼稚園教育要領、認定こども園の場合は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領があり、国が定める基準に基づいた教育保育に取り組むことになる。幼稚園でも認定こども園でも目指すべき姿は同一であるとされている。施設の違いによって教育・保育に違いがあることはない。各園によって大切にしていることが異なる部分があり、やり方等が違う場合もあるが、最終的な目指す姿は同じである。豊岡市では、スタンダード・カリキュラムを策定しており、幼稚園、保育園、こども園、公立、私立を含めた保育士が同じ研修を受け、同じレベルの教育が出来るようスキルアップを図っている。

会長 言われていることはその通りである。幼稚園もこども園も学校としての位置付けがあるので、基本的な問題はないと思う。豊岡市としては、どこの園に行っても質の高い教育を受けられることが必要だと思う。そのようなことをスタンダード・カリキュラムや研修の中で取り組まれている。

私自身も幼稚園を経験したので、幼稚園がなくなることは寂しく思う。

議題につきまして、承認してよろしいか。

全委員 異議等なし。

(3) 意見交換

委員 発達支援については、この会議では話されないのか。発達支援をしないと見えない子どもへのフォローや施策を市で公立の通所施設はないのかなと疑問に思うことがある。

事務局 療育についても、子ども・子育て支援事業計画の位置付けにある。虐待はこども支援センターで担当している。子ども家庭相談員が家庭訪問等を実施している。一時保護等に関しては、県のこども家庭センターと連携を図りながら取り組んでいる。事業計画の P81 に支援の必要な子どもの支援について記載している。こども支援センターや健診等で課題が見つかる子どももあるので、健康福祉部とも連携を図りながら進めている。県の施設や発達障害の方の通所施設教育が出来るよう努めている。

委員 該当の保護者から聞いたが、民間の通所施設はあるが、受入れ人数が少ないため、情報を知った方から早いもの順で入る状況になっている。情報を知ることが遅いと通うことができない。待っていても子どもは成長してしまうため、課題が増える。家庭内だけでなく専門的に長く見てもらえる施設が豊岡市にはないのか。担当部署が多いため、1本化できないのか。

事務局 発達障がいの方の担当は健康福祉部である。1歳6か月健診や2歳児健診の中で発達に課題がある場合は早期療育に繋げていくよう取り組んでいる。通所施設や放課後デイサービス等は定員がいっぱいの状態である。検討会で検討することとしているが、施設の定員が限られており、施設数も限られている。年

	<p>度替わりの時は比較的入りやすいが、年度途中はなかなか入ることができない。遠大な課題として受け止めている。</p> <p>委員 子育て支援総合拠点等の施設ができる予定であり、市内中心地は中央公園の整備等もされているが、住んでいる地域では公園の草が生い茂っており、遊具は老朽化して使える状況にない。保護者の方も「行ったらダメ」と言わざるを得ない状況である。中心地が整備されることは理解できるが、豊岡市は大変広い面積を有している。子育てはそれぞれの地域で行うため、地域の公園は子どもにとって発達に必要な場所であると考え。そのような整備は都市整備課等が担当していると思うが、要望を挙げても応えてもらえない。それぞれの公園や遊具を整備していただけると幸いである。</p> <p>会長 2点事務局も課題として考えていただきたい。</p> <p>(4) その他</p> <p>事務局 委員の任期が2022年6月までである。この任期中に再度、会議を開催する予定はない。この委員での会議は本日が最後となる。</p> <p>多く会議を開催し、委員の意見を聞くことができれば良かったが、新型コロナウイルス感染症等の対応等により、会議を開催することができなく申し訳なく思っている。</p> <p>これを持って本日の会議を終了させていただく。</p>
7 閉会	副会長あいさつ